

2020年7月7日掲載 輸送経済新聞

下期の物流低調 が響き経常減益

DTHD

ディー・ティー・ホールディングス（本社・山形市、武藤幸規社長）の2020年3月期連結業績は、売上高が前期比1・1%減の1089億8900万円、経常利益が同51・9%減の13億5300万円だった。自動車販売は堅調だったが、物流関連での景気減速や新型コロナウイルスによる

物量減、外注費増加が響いた。

物流関連は、主力の貨

物自動車運送事業で下期に景気減速感が顕在化。

消費増税、災害、新型コロナ

感染拡大が荷動き減

退につながり、特積み運

賃の適正收受による採算

改善は進んだものの、取

扱物量の落ち込みをカバー

できなかった。恒常的

なドライバー不足を背景

に輸配送外注費が増加し

たことも減益の要因。

トラック・バスを主力

とする自動車販売では、

大型車の新車販売増加、

部品販売の条件改善が奏

功。一般修理の入庫減少

はあったが、全体として

堅調だった。

主要子会社の業績は、

物流関連の第一貨物は売

上高737億7300万

円（前期比1・5%減）、

経常利益6億700万円

（同70・7%減）。自動車

販売の太平興業は売上高

278億9700万円

（同2・9%増）、経常利

益5億5000万円（同

164・0%増）。

人事では第一貨物、太

平興業とも24日付で武藤

社長は会長に就き、それ

ぞれ米田総一郎専務、平

岡裕専務が社長に就任。

DTI商事は平岡氏が取締

役から社長に就任した。